

医療画像用ソフト発売

器官の長さ・面積を計測

テクノ

【広島】テクノ（広島市中区、伊藤賢治社長、082・544・0011）は、医療画像上の器官の長さや面積を計測するソフト「メディカル・イメージ・アナライザー」を発売した。筋肉断面や気管腔、脊柱などの面積測定を想定している。簡単な操作で画像データを数値化できる汎用性の高いソフトで、価格は30万円。初年度100本の販売を目指す。これをベースに医療

用画像処理ソフトの開発を強化する。東京大学付属病院小児外科と2カ年の共同開発契約を締結。古村眞講師の監修により1年目の成果として商品化した。コンピュータ断層撮影装置（CT）や磁気共鳴断層撮影装置（MRI）、デジタルレントゲン装置などの画像を取り込み長さや面積の計測など、各種画像処理機能を持つ。データは表計算ソフトに出力される。画像の定量

的な測定が必要とされる場合に使用する。自社の工業用画像処理ソフトをベースに開発した。使いやすさを追求したのが特徴で、1画像に1画面のシンプルな構成とし、分かりやすい画面レイアウトにした。価格を抑えながらも寸法計測で距離や角度、円、円間隔など12種のコマンドをそろえた。今回の製品をベースに顧客の要望に応じてカスタマイズや、オプション機能を増やす。

診断支援システム

大学と開発



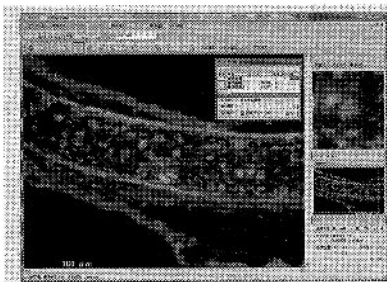
伊藤 社長

テクノは光学機器商社の猪原商会（広島市中区）の関連会社として1996年に設立。画像処理技術に特徴があり、寸法計測や粒子解析などのソフトを製造業向けに販売している。

現在最も力を入れているのが、医療分野向けの診断支援・画像解析システム。東京大学医学部付属病院と共同で、レントゲン画像から変形性膝関節症を全自動で診断するソフトウェアなどを開発

医療画像計測ソフトに力

テクノ



した。「産学連携をうまく生かすことができた」（伊藤賢治社長）と話すように、10年7月には同病院小児外科と共同開発契約を結んだ。

その成果の第一弾となったのが、より汎用性の高い医療画像の長さ・面積計測ソフト「メディカル・イメージ・アナライザー」。操作性に優れた画面レイアウトが分かりや

すいのが特徴だ。大学が全面的に監修しているとあって「各地の医療機関を紹介してもらえ、採用決定も早い」（同）という。

今後は汎用性のある商品以外にも、市場性があると分かれれば販売を強化していく方針。理想は「医療分野向け製品の売上比率を30%程度まで引き上げる」（同）ことだ。

▽所在地 広島市中区、082・544・0011
 11▽社長 伊藤賢治氏
 △営業品目 ソフトウェア開発・販売、ハードウェア設計
 ▼URL www.inotech.co.jp
 ▲「メディカル・イメージ・アナライザー」は操作性に優れる